

アソカ講話084

テーマ「命の時間は天命」

今朝、ご利用者が急変し突然のような死を迎えた。驚きとショック、そして悲しみ。様々な思いが湧きあがる。やはり、準備のない死の訪れはショックや悲しみを免れない。

3歳の子が死んでもそれがその子の寿命、天命、20歳でも、40歳でも、100歳でもそれがその人の天寿であると教えられたことがある。人は生まれおちた時から、天から与えられた命の時間が決まっているという。

命を終える悲しみはあるが、悔むことはない。すべて天命・天が与えた時間であり、死は私達が関わる、決めることが本来できない領域なのだから。

今回のことは、職員はすべきことをすべてしている素晴らしいケアや看護、相談連絡調整等をできており、職員の素晴らしさに心から感謝したい。

ご利用者の死は、受け入れなければならない現実であり、私達はいつ遭遇するか分からない職場で働いている。今回のように、その時点で私達のできる精一杯のことをする、それで「良し」として、明日から、また、素晴らしい笑顔に戻ることを心から願っている。